科目名	病気を診る演習	対象学年・時期	1年・後期
講師	専任教員	単位数・時間数	1単位・30時間
講義概要	ディプリマポリシー3に基づく。看護は医学的、病理学的な方向からのみ病気を捉えるのではなく、日々の暮らしや生活の変化として病気を診る必要がある。人間は発達段階によって患いやすい病気があり、細胞や組織の衰えで引き起こされる病気、不可逆的な細胞の崩壊によって起こる病気など、ライフサイクルの線上に健康の変化として捉える診方を身につけることが必要である。病気がもたらす生活上の変化や影響を学んでいく。 具体的には、人間はあらゆる外的な環境に影響を受けて生命維持のために恒常性を保ちながら生命を営んでいる。「病気になる」と様々な臓器に異常が生じ、その正常な機能と構造が損なわれた状態となる。生じた異常に応じて人の体にはさまざまな変化が起こる。一方、人の体には「自然治癒力」が備わっており、様々な仕組みが合わさり作用することで回復に向かう。看護は、病気の回復過程を支える役割がある。この科目では、「病気になる」ことを理解するために、ひとの体に異常が生じてから、回復するまでの過程（なりゆき）について学ぶ。病気の成り立ちやしくみ（メカニズム）を、ひとに症状があらわれたときの（A）どこに（B）何が生じると（ｃ）どのような機能が障害されるのか（D）その結果、どのようななりゆきと（E）どのような変化をもたらすのか（＝症状＝異物を排除しようとするメカニズム）について、領域を横断した学習を通して看護につながる思考過程を身につける。		
講義形態	講義・個人ワーク		
学習目標	1.外界からもたらされる病気、生活習慣の中で内部環境が変化する病気、細胞の衰えで引き起こされる不可逆的な病気など病気にかかる人体の形態や機能変化がわかる。 ２．ライフサイクルの発達段階の中で起こる病気の人体の形態や機能変化がわかる		
学習内容 (授業計画)	1回目　　ガイダンス	事前学習及び参考図書	
	２～３回目　炎症の成り立ち	○息をする（呼吸の）機能（解剖生理を含む ○炎症って何？ ○炎症が起こるとどうなるの？ 解剖生理学/病態生理学/病理学/成人：呼吸器	
	４～５回目　循環障害の成り立ち	○心臓の構造と機能。 ○体循環と肺循環。 ○血液がうっ滞するとどうなるの？ 解剖生理学/病態生理学/病理学/成人：循環器	
	6～７回目　腫瘍の成り立ち	○食べたものはどうやって消化・吸収されるの？ ○腫瘍って何？ ○腫瘍ができるとどうなるの？ 解剖生理学/病態生理学/病理学/成人：消化器	
	8～９回目　感染症の成り立ち	○感染について（感染の成立、感染防御機構） ○免疫について ○感染後の経過 ○病原体（ウイルス・細菌）について 解剖生理学病態生理学/病理学/基礎看護学/小児：小児看護学①/小児の発達と看護	
	10～11回目　細胞の老化の成り立ちと影響	○感覚機能の老化について （老年の概論での学習を各自整理・補填して提出 解剖生理学/高齢者の健康障害/高齢者の看護の実践	
	12～13回目　神経伝達物質	○シナプスにおける興奮の伝達過程 ○大脳辺縁系の働き ○錐体路・錐体外路とは ○脳の統合機能 解剖生理学/情緒発達と精神看護の基本/精神障害と看護の実践	
	14～15回目　内分泌機能の障害	○月経に関するホルモン ○ホルモン分泌の機能が障害されるとどうなる？ ○加齢によって卵巣機能が低下するとどうなる？ 解剖生理学/病態生理学/母性看護学概論・リプロダクティブヘルスと看護	
使用テキスト	「学習内容」内の事前学習の参考図書		
事前学習・事後学習（学習を促進できる学修）	内容及び参考図書については「学習内容」を参照してください。 事前学習については、指定日まで各教員に提出してください		

評価基準と 評価方法	病気ごとに、終わりの時間に小テスト（10点×７）を行い合計点が成績となる。 小テスト70%　課題提出状況や取り組み30%
備考	